

アジア安保 枠組み模索

世界経済の成長センターであると同時に、中国の拡張主義的な動きで緊張が高まるアジア。平和と安定を築くために、欧州の取り組みをモデルとした模索が始まっている。



物を小野寺五典防衛相が訪れた。欧州全体の安保協力のために置かれている全欧安保協力機構(OSEC)の事務局だ。「透明性を有していない中国の軍事費はアジアの大きな懸念になっている。こんな機会にOSECはうまく機能するだろうか。組織の説明を受けた小野寺氏が質問すると、担当者は「O

昨年7月、古都ウィーンの中心部、オーストリア議会にほと近い場所にある建



小野寺五典防衛相がアジア版OSECの創設を提案した拡大ASEAN国防相会議＝バンドルスリアガワン(ブルネイ)で昨年8月29日、防衛省のホームページから

OSECは透明性を高めるために一歩一歩前進してきている。信頼醸成を進めるには年一回の会議ではなく、毎週のように集まって会議を行うことが大事だ」と答えた。

OSECの加盟国間では、例えばある国が戦車の数を増やせば、加盟国が分かる仕組みになっている。加盟国は増やした理由の説明を求められることができる。そうしたことが信頼関係を生み土壌になっている。「アジア版OSECがあれば非常に有効だ」。小野寺氏は確信した。

OSECは、北米、欧州、中央アジアの57カ国が加盟する世界最大の地域安全保障機構。東西冷戦時代、北大西洋条約機構(NATO)とワルシャワ条約機構(W

対話継続の場を提案

「インド太平洋地域でいかに『穏やかさ』を維持していけるのか。私はこの難題に光を当てたい」。インドネシアのマルチ外相は昨年5月、米ワシントンで開かれたシンクタンク主催のシンポジウムで講演し、自ら考案した「インド太平洋友好協力条約」構想を発表した。

マルチ外相はインド太平洋地域にはO信頼の欠如、未解決の領域紛争、③地域における変化への対応、④の三つの課題があると分析した。こうした課題を対応するため、ASEANに日本、中国、韓国、米国、オーストラリア、インドなどを加えたインド太平洋地域の各国が、信頼関係構築のために協議する枠組みを設けることが必要だとした。

地理的には小野寺氏が提案したアジア版OSECとほぼ同じだが、法的拘束力を持たない緩やかな枠組みを想定している。「対話の継続」を最大の目的としているのが特徴だ。

昨年12月に来日したインドネシアのユドヨノ大統領も東京都内での講演で、同

TO)による軍事的緊張を緩和するために1975年に全欧安保協力会議(OSEC)として発足、95年に機構に衣替えした。加盟国による週一回の大使級会合や、信頼醸成のための軍事情報の交換などが制度化されている。「中国による昨年1月のレーダー照射事案も防衛課別働の問題も、常設機関があればすぐに緊急理事会を開いて各国が協議できる」。こう語る小野寺氏は、帰国の翌月にブルネイで開催された拡大東南アジア諸国連合(ASEAN)国防相会議で、アジア版OSECの創設を提案。米国やロシアなどから賛同を得た。ウクライナ情勢をめぐってはOSECが3月21日、ウクライナに文民の国際監視団の派遣を決めた。ロシアが監視団の派遣に意欲したことで、緊張緩和に一定の役割を果たすことが期待されている。

欧州の安全保障が専門の国際基督教大(ICU)の植田隆子教授は、「2国間で争いがあっても常設理事会があれば、両国が顔を合わせておくことになる。常に会えるメカニズムがあることで対話が途切れることがなくなる」と語る。

アジア版OSECやマルチ外相の構想を評価している民主党の長島昭久衆議員も「中国のパワーが増大すれば、アジアに冷戦時のような対立型の構造が作られてしまう。これを深化させない仕組みとして有効だ」と強調した。

50年先 対立か安定か

ただ、現実的な動きはもう少し複雑だ。中国は米軍に対し、接近阻止・領域拒否(anti access、area denial)能力の向上を図る。

接近阻止とは、緊張が高まってきた際に米軍が西太平洋に入ってくるのを阻止すること。領域拒否とは、自由に入ってきた米軍にその中に入らせないように、自由な行動をさせないことを指す。中国軍はこのために、水上艦艇や潜水艦の能力向上を図っていることに加え、「空母キラー」といわれる地上発射型対艦弾道ミサイル(ASBM)の配備を進めている。米軍がA2ADに対抗す

はない。それでも、小野寺氏は「私たちと隣国はこれから100年も1000年も隣国だ。努力を重ねて信頼を醸成していけば、50年先にはこの東アジアも安定するかもしれない」と語った。◇

この連載は古本陽狂、田所柳子、福岡静哉、念佛明奈、高塚保(以上政治部)、堀山明子、西田進一郎、米村耕一、大貫智子、岡俊之、服部正法(以上外信部)、和田浩幸(東京社会部)、津島史人(鹿児島支局)が担当しました。